

進路だより 8号

2019 センター試験 橋は300名が出願

2019年度大学入試の第一関門である「大学入試センター試験（1月19日（土）・20日（日）」の出願手続きが終了し、今年は、本校から300名が出願しました。（昨年は309名）

大学入試に成功するためには、勉強をして実力をつけることに加えて、入試のしくみを理解し、それを有効に活用していくことが必要です。以下はその解説です。（参考・引用：「河合塾KEI-NAVI」）

特集 センター試験と国公立入試のしくみ

■ センター試験はすべての受験生に重要な試験



国公立は必須！私立も『センター利用方式』を採用

センター試験は毎年1月中旬の2日間に、全国で一斉に実施され、50万人以上が受験する試験です。「国公立大入試」の一次試験であり、各大学によって定められた科目の試験をすべて受験しなければいけません。さらに、国公立大だけでなく、私立大の多くが、大学独自の入学試験に加えて、センター試験の得点を合否判定に利用する「センター試験利用方式」を採用しています。それゆえ、**大学入試センター試験は、すべての受験生にとって大事な試験なのです。**

■ 『マークシート方式』で実施

知識の暗記では対応不能！「読解力」・「思考力」等が試される

すべて「マークシート方式」で実施されます。選択式の試験で、教科書に沿った基礎的な内容の出題ではありますが、決して簡単な試験ではありません。**知識の丸暗記ではとても対応ができません。文章やデータの読解力や思考力、計算力等の力が求められます。**さらに、問題文が長く、問題数も多いため、**時間内に解答するにはかなりのスピードが要求されます。**ゆえに、演習や模試を通して、マークシート形式の問題に慣れておくことが必要です。

■ 2日間で5教科7科目以上を受験

1日目：社国英 2日目：理数 心身ともかなりハードな日程



以下の表は、今年度のセンター試験の時間割です。「地理歴史および公民」「理科②（「基礎」が付かない理科）」の2科目選択者の試験は、解答順に第1解答科目・第2解答科目に区分し、各60分で実施します。試験時間130分には、第1・第2解答科目間の**答案回収等の時間を10分**を含みます。

また、「英語」では、筆記試験とは別の時間帯で実施される「リスニング」が必須となっています。これは各受験者に配られる「**ICプレーヤー**」を自分で操作して、30分間のテストが実施されます。

この2日間は、緊張感もあって、かなりハードになるのは間違いありません。

◇2019 大学入試センター試験の時間割

試験日	試験教科・科目		試験時間
1日目 1月19日(土)	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	【2科目選択】 9:30～11:40 【1科目選択】 10:40～11:40
		国語	「国語」 13:00～14:20
	外国語	「英語」	①筆記 15:10～16:30 ②リスニング 17:10～18:10
2日目 1月20日(日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数学①	「数学I」「数学I・数学A」	11:20～12:20
	数学②	「数学II」「数学II・数学B」	13:40～14:40
1月20日(日)	理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	【2科目選択】 15:30～17:40 【1科目選択】 16:40～17:40

■ 各大学が指定する教科・科目を受験

受験生は、志望大学が指定する教科・科目を選択して受験することになり、**合否判定に用いるセンター試験の教科数や指定教科（科目）は大学により異なります。**国公立大では5教科以上、私立大学のセンター試験利用方式では2～3教科が一般的です。指定教科も、大学により異なります。

理科については特に注意が必要です。**国公立大学の理系学部を志望するなら、「理科②2科目」を選択します。**一方、**国公立大学文系学部では、「理科①2科目」または「理科②1科目」を受験するのが基本です**（本校生は「理科①」の生物基礎＋地学基礎で受験）

社会については、**東北大などの難関大の場合、「公民」の「現代社会」「倫理」「政治・経済」では受験できないことが多いため、「倫理、政治・経済」（通称「倫政」）が必要です。**ゆえに、1、2年生の難関大志望者は3年次の科目選択では注意しましょう。

■ 受験する教科は『事前登録制』

受験教科の「事前登録制」が導入されていて、**出願時に、自分が受験する教科をあらかじめ登録しておくもので、出願時に登録していない教科は受験できません。**特に、「理科」では選択方法（「理科①・②の組合せ」と「受験科目数」）、「地理歴史・公民」では「受験科目数」を登録します。**各大学が受験を要求している教科・科目を受験していない場合、受験資格を失うことになるので要注意です。**

■ 理・社の『第1解答科目』に注意

「理科②」や「地理歴史・公民」を1科目しか利用しない大学（「公立大入試」や「私立大のセンター利用方式」など）の中には、これらの教科を2科目受験した場合の成績は、高得点の科目ではなく、「第1解答科目（理科②、地理歴史・公民で1科目めに受験した科目）」の得点を利用すると指定している大学があります。ゆえに、**理社の第1解答科目をどれにするのかも、重要な作戦になります。**

■ 2021年入試から「センター試験」廃止

高1世代より『大学入学共通テスト』の導入

「思考力・判断力・表現力」+「英語4技能」が評価される

現在、進められている高大接続改革では、大学入試の在り方が見直されていて、現行のセンター試験は2020年1月の実施を最後に廃止されます。これに代わり2021年入試から導入されるのが「大学入学共通テスト」です。現1年生からこのテストを受験することになります。大きな変更として、マークシート方式の試験に一部「記述式問題（国・数）」が導入されます。また、「英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）」を評価すること等が挙げられます。

また、出題内容についても、「知識・技能」以上に、「思考力・判断力・表現力」を評価するテストとなるよう検討が進められています。昨年から実施されている「試行テスト」の実施問題等を見る限りでは、現在のセンター試験と比較して、難易度の高い応用的な問題の割合が高い出題になっていくと予想されます。これまで以上に、自らよく考え、主体的に学ぶ姿勢が大事になってきます。今後は、この動きを受けて、現行のセンター試験や各大学の独自試験においても、これまで以上に高い思考力を問う形式の出題が増えていくのは明白です。日頃の学習姿勢の見直しが求められます。

なお、英語4技能については、本校では、これまでどおり「英検」の受験を奨励するとともに、新たに今年度からは、「4技能外部検定試験」を1年生全員で受検する等、2年後に向けて、計画的に準備を進めていきます。

なお、「大学入学共通テスト」や各大学の「英語4技能の評価」等については、現時点で未決定の部分も多いため、今後の正式な発表には注意をしてください。情報が入りしだい、LHRや進路だよりを通じて解説を行っていきます。



■ 国公立大学の「一般入試」のしくみを学ぶ

国公立大学の一般入試の可否は、一次試験的役割を果たす「センター試験」の得点と、大学別に実施される「二次試験（個別学力検査）」の得点の合計で判定します。

① センター試験の結果を基に『二次出願先』を決定

全日程を同時に出願 出願後の変更は不可能！

国公立大学志望者は、1月のセンター試験を受験し、試験翌日に自己採点を行った後、その結果を参考にしたうえで、志望大学に願書を提出します（「二次出願」）。全日程（前期・中期・後期日程）を同時に出願し、出願後は一切変更ができません。たいへん重要な決断となりますが、国公立大学の出願期間は、センター試験の約1週間後から約10日間というわずかな時間しか残されていません。ゆえに、あらかじめ、12月中に、担任と保護者を交えた三者面談を通してよく話し合い、出願先を絞り込んでおく必要があります。願書も早めに取り寄せておくべきです。

② 「前期・後期」の出願先の組合せがポイント

第1志望は「前期日程」で出願 後期日程廃止の動きに要注意！

「前期日程」の合格者は「後期日程」の受験結果を見る前に、「前期日程」で受験した大学への入学手続きを行わなければいけません。そのため、第1志望校は「前期日程」で受験するのが基本です。また、前期日程の合格者は後期日程を受験しません。さらに、私立大に合格した段階で受験をやめて

しまう人もいますから、おのずと後期日程の欠席率は高くなります。たとえ、前期日程で不合格であっても、くじけずに後期日程まで受験を続ければ国公立大合格のチャンスは広がります。

前期日程と後期日程の募集人員の割合は8：2と圧倒的に「前期日程」の割合が高くなっています。さらに、近年、多くの難関大学で、「後期日程の廃止」の動きが顕著です。これに伴い、周辺の同系統の大学の後期日程の難易度が上昇しています。そして、この影響は、地方の中堅国公立大学の受験にも波及しており、一部の難関大志望者だけの問題ではなくなってきていることにも注目です。

③ 「2段階選抜（通称：「足切り」）」制度に注意

これは、国公立大の一般入試において、センター試験の成績で2次試験の受験者を事前に選抜したうえで2次試験を実施する制度です。2段階選抜の実施の有無は大学によりますが、多くの場合、「志願者が募集人員の〇倍を上回った場合に実施する」としています。そのため、2段階選抜が実施されるのは、志願者が集まる難関大や医学科のような人気学科が中心です。2段階選抜が実施されると、センター試験の成績次第で、二次出願をしても実際の試験を受けることなく不合格とされるのです。

特集 センター試験100日前の戦い方

心身ともにきつい秋… あせらず地道に

ついにセンター試験まで100日を切りました。10月からは毎週のように模試が続くので、受験生にとっては、心身共に最もきつい時期になると思われます。不安や焦りを感じている人も増えているのではないのでしょうか。幸いなことに、時間はまだまだたくさん残されています。今は思うような結果が出なくても、あきらめないでください。あなたの今のがんばりは、少し遅れて、数字になって現れてきます。今は我慢の時間です。適度な休息をとりつつ、地道にやってみましょう。

■ 今週の模試は次週までにしっかり復習する

あれこれ手を出さず 目の前の教材の完全理解を目指す

残り100日を切ったからといって、特別なことをする必要はありません。あれこれ新しいことに手を出し、どれも中途半端になってしまわぬようにしたいものです。まず、学校の教材と模試を使った復習に力を注ぐべきです。特に、正解率が低かった問題に関しては、再度時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。また、分野別、設問別の得点率をよく分析し、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。そこが最重要の強化ポイントになるはずで、そこを強化することにより、総合点を上げることが可能になります。

■ 時間をかけて苦手分野の強化に挑む

今からなら十分間に合う！ 橋の先生方を有効活用しよう

現在、苦手意識のある分野は、すぐに克服に向けて行動をおこすべきです。それが重要性の高いものならば、なおさらです。約100日の時間があれば、十分可能だと思われます。苦手分野は避けていきたいという気持ちはわかりますが、そういうところほどよく出るものです。分かっている手を打たないでいたら、後にどれだけ後悔することか！ 気になっているところは、すぐに克服してスッキリしましょう。自分一人で困っていないで、橋高校の先生方を有効に活用すべきです。そのために先生方はいるのです。

